

# 国語(第1回)

		得点率 (%)
1 説明文	問一	90.9
	問二	68.2
	問三	88.4
	問四	13.6
	問五	95.7
	問六	90.5
	問七	88.2
	問八	72.3
2 物語文	問一	35.6
	問二	99.1
	問三	45.5
	問四	44.3
	問五	64.8
	問六	44.9
	問七	89.1
	問八	68.3

合格者最高点 90

合格者最低点 52

## 1

出典 外山滋比古「考えるとはどういうことか」

知識として知ることと、それを心のそこから理解して生活の中で用いることとの間にはいろいろな格差があるということを、具体例を示しながら説明している文章です。

途中にさまざまな固有名詞や用語が出てきますが、文章の流れを正確に追うことができればそれらが読解の妨げになることはありません。

問一 8行目にある傍線部(1)の内容を説明する問題です。

この文章の冒頭には「これまで人類は科学の力によって、多くのことを解明してきました。しかし、真実を頭で理解してはいても、それを心の底から実感するのは簡単ではありません。」と述べられています。よって、この後の記述は、<科学で得られた知識が、生活の中では消化されていない>という事実について述べられるはずですが、傍線部(1)はその具体例を述べた部分です。該当部分の「日が昇る」「日が沈む」という表現は、太陽の動きを前提としており、天動説の考え方によるものです。科学の知見ではすでに地動説が確認されているのに、言語表現においては天動説的であると述べられているのです。その矛盾を説明するのが、ここで求められていることとなります。同じ段落の最後の12行目の「つまり、私たちは」から始まる一文の内容がこれに相当します。

問二 17行目にある傍線部(2)の理由を説明する問題です。科学の知識では地球は球面であると考えながら、実感としては「平面の上で暮らしている」と考えているということになります。よって27行目にある「日常的に目にする世界はやはり平面です。そのため私たち

は、自分たちが球面上で暮らしていることがなかなか実感できません」という一文を踏まえて解答を作成します。「なぜですか」という問いなので、解答の末尾を「から。」「ので。」などで止める必要があります。

問三 34行目空欄(3)の補充問題です。直前にあるように、頭では「日本の夜はアメリカの昼」という地動説的な考え方を理解できたとしても、それを実感として把握できないということになります。その実感できないものを表す41行目(または75行目)の「昼と夜とが同時に存在する」を抜き出すことが求められています。

問四 76行目にある傍線部(4)「球面をとらえようとする思考法」とは科学的なものの見方です。日常的な世界を平面と考える平面思考に対して、非ユークリッド幾何学やキュビズムのような球面思考がその具体例としてここまであげられています。こうした考え方がなぜ重要なのかについては、56行目に私たちが「以前よりもはるかに大きな世界の中で生活するようになった」という現状が述べられています。それは91行目にあるように「情報技術の発達」が原因でした。そうした状況においては90行目の「世界で起きていることを正しく理解」することや、93行目の「国際関係がうまくいく」ことが求められ、そのためには95行目にあるように「お互いにつながった存在としてつきあっていく」「球面思考」が必要になるわけです。「なぜ」という質問ですので解答の文末は「から。」などの形にする必要があります。得点率が第1回の問題の中で一番低く、差のついた問題となりました。

問五 87行目空欄(5)の補充問題です。慣用的表現の知識を問うものです。反感を「買う」が正解です。

問六 接続詞などの語句を入れる問題です。11行目のAは天文学者を他の一般人と区別し限定する表現なので、「せめて」、29行目のBは具体例を述べる直前にあるので「たとえば」、61行目のCはその前で平面思考によって人々が生活していることを述べながら、後続の部分でそれに反する例をあげているのでそれを導く「もちろん」、69行目のDはさらに例を追加している部分で「また」が入ります。

問七 漢字の書き取りの問題です。一画ずつ丁寧に書くことが必要です。探検には探険の表記もありますので両方を正解としました。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

正解はウです。ウは52行目「昔の人間は小さな世界で生活していましたから、本当は球面上で暮らしていても、それを意識する必要がありませんでした。どこまでも同じ平面が続いているという前提で、物事を考えていればよかったです。」という部分の内容の言い換えです。

アは、「私たちはその真実をいまだに頭で理解できないまま暮らし続けている。」の部分が不適当です。本文の表現に沿って考えるならば、12行目「私たちは、頭では地動説を受け

入れている、日常生活では相変わらず天動説的な感覚を持って暮らしているわけ」であり、頭では理解できていることになります。

イは 48 行目「人間が時差ボケに苦しむようになってずいぶんになりますが、このギャップを埋める方法は、まだないようです。」とある記述に反します。

エは「非ユークリッド幾何学」や「キュビスム」などは球面思考に属する考えとして述べられていますが、「地球の裏側」という表現については 79 行目「平面思考の表れでしょう」とあることからこの選択肢の内容は本文と一致していないことになります。

## 2

出典 宮下恵菜「ガール！ ガール！ ガールズ！」

出題箇所は学校で女子に人気のある藤崎翔音という少年と主人公の「ひな」との会話を中心とした場面です。自分のもつ魅力に気づかない少年の素朴な言動と、それに翻弄される少女たちの気持ちを、少女の視点の初々しい感覚でつづった作品と言えます。

- 問一 2 行目傍線部（1）の発言から人物の心情を読み取る問題です。まず人物関係の把握が必要です。琴梨がこの物語の主人公「ひな」の姉であることは 4 行目の翔音の発言からわかります。その後の発言から、姉の心配とは「月曜日から妹の様子がおかしいんだけど、学校で何かあったかしらないか」ということであり、翔音から「朝礼の時、俺、声かけた」と聞いたことにより「それが原因だ」と確信したこともそれに加えられます。少女たちの憧れの少年翔音の言動の影響は大きいというわけです。この問題の解答は心配していることの内容をあくまで琴梨の立場でまとめる必要があります。作中には登場していない人物ですので他の人物と混同しないようにしなければなりません。
- 問二 9 行目の空欄（2）の補充問題です。慣用的用言の知識を問う問題です。「途方に暮れる」という表現の知識を問いました。漢字でもひらがなでも正解として採点しました。
- 問三 21 行目空欄（3）の補充問題です。場面の季節を問いました。手がかりとしては 20 行目に「虫の声」があり、22 行目には「キンモクセイの甘い香り」とあります。よって物語の世界の現在は「秋」であることが推測できます。解答の際に注意しなくてはならないのは空欄の直後に「の夕暮れとは肌触りがちがう」とあり、否定の文脈の中にあります。よって「秋」と比較の対象になっている「夏」が正解になります。
- 問四 50 行目の傍線（4）の表現に見られる主人公にとっての時間の感覚を尋ねました。時計ではかれる絶対的な時間とは別に、個々人が考える感覚的な時間というものがありますが、ここでは主人公の「ひな」は「あっという間にすぎてしまう」という短さを感じています。時間を短く感じているのは 31 行目の「こいつ、やっぱかっこいい」から始まる翔音に対する関心の深まりや、それまで知らなかった一面の発見などがあったことに端を発します。

そして47行目「まだ、話を聞きたい。」という思いにつながっています。以上から「翔音と話すことが楽しく」感じたこと、「今まで知らなかった一面も知」ったこと、さらに「もっと知りたい」と思ったことなどを指定字数の中でまとめます。

問五 「頭」を使った慣用句に関する問題です。予想よりも低い得点率となってしまいました。

問六 164行目から始まる傍線(6)の主人公の心の声と考えられる表現をもとに、その心情を簡潔にまとめることを求めました。該当箇所を別の表現に置き換える力を問うものです。「頭の中であれこれ考えない」とは「周囲を気にしない」と置き換えられます。冒頭部分で主人公は翔音との会話が周囲からどのように見られているのかを気にしている描写がありました。また、末尾の部分には「またうわさになっちゃうけど、それでもいい」とあります。次に、「好きなら、好き」以下は自分の思いに素直になることを述べていると考えられます。よって「周囲を気にせず、自分の気持ちに素直に行動すること。」とまとめられます。

問七 オノマトペを含む副詞を補充する問題です。28行目にあるAは驚いた様子を描写した部分なので「びくうっと」(原文通り)、95行目のBはかわいらしい文字で小さなカードにさまざまな情報が書かれていることをあらわす「ちまちまと」、112行目のCはあわてて自転車の方向を変える様を表現しているので「あたふたと」、125行目のDは曲芸のくまにたとえられる自転車のハンドルさばきの描写で「よたよたと」が入ります。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

正解はイです。イは真彩の母の性格や、その後の変化について述べたものですが、いずれも文中に書かれていますのでこれが正解です。

アは「子どもと接するのが苦手な冷たい態度をとってしまう人物であった。」が間違いです。問題文中には「真彩ちゃん」が登場しますが、129行目の手を振る動作などから冷たい態度はとっているとはいえません。

ウは「ひなにはそれがうっとうしく」以下が明らかな間違いです。「ひな」は真彩も真彩の母も嫌ってはいません。136行目で「私の友だち」と言っています。

エは「ひなの説得により」以下が間違いです。沙綾ちゃんのママとの関係が深まったことは読み取れますが、そのいきさつに関しては本文中からは読み取れません。